

研究・調査報告書

報告書番号	担当
530	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Family relationship quality and early alcohol use: evidence for gender-specific risk processes. 家族関係の質と早期の飲酒との関係について：一方の性に限られたリスクプロセスの根拠	
執筆者	
Kelly AB, Toumbourou JW, O'Flaherty M, Patton GC, Homel R, Connor JP, Williams J.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Stud Alcohol Drugs. 2011 May;72(3):399-407.	
キーワード	
飲酒、家族状況、性、青春期	
要旨	
目的： 家族の特徴（親の性格や飲酒に対する態度）が十代半ばの飲酒に影響するということが知られている。そして家族の特徴には十代半ばの女の子対男の子に対する異なる影響があるという根拠がある。この研究は、家族の関係性、子供たちの飲酒に対する親の不同意、また思春期前半の飲親の飲酒に関する子供の性の違いを調査した。	
方法： 学年にすると6、8の学生（年齢で11歳と13歳、それぞれ;N=6,837; 52.6%が女性）、3つのオーストラリアの州の中231の学校から選択された。仮説は、2つの順序のロジスティック回帰分析（学校内での個人）で検証された。従属変数は、思春期前期の飲酒の生涯頻度であった。独立変数は両親の青春期の飲酒、緊密さ、飲酒に対する不同意を使用した。制御変数は、知覚、仲間の飲酒と社会経済不利を含んだ。	
結論： 結果は、若い年齢層（学年6）にとって、異性の親との感情的な親密さが保守的に作用しているということであった。家族の対立は、両方の年齢層で男性の飲酒ではなく女性の飲酒と関係していることがわかった。	
結論： 家族の関係性と早期の飲酒は疫学的に性の違いに根拠があった。社会的発達上のモデルは、これらの幼児性違いを説明するために修正が必要になることも考えられる。一方の性に限られる家族力学は、家族の予防的戦略に重要な観点であることがわかった。	